

第5回 象牙取引規制に関する有識者会議 中泉拓也委員 資料

需要抑制と管理された象牙の取引



需要抑制と管理された象牙の取引

現状では、市場を閉鎖するよりも需要の削減を優先すべき。その上で、認証制度等で違法象牙を市場から排除することが第一である。その意味で「象牙製品を取り扱う事業者の登録制度」の創設、及び全形牙の登録義務化他は非常に評価できる。今後も当該制度の効果を注視したい。

以下今回補足したい点

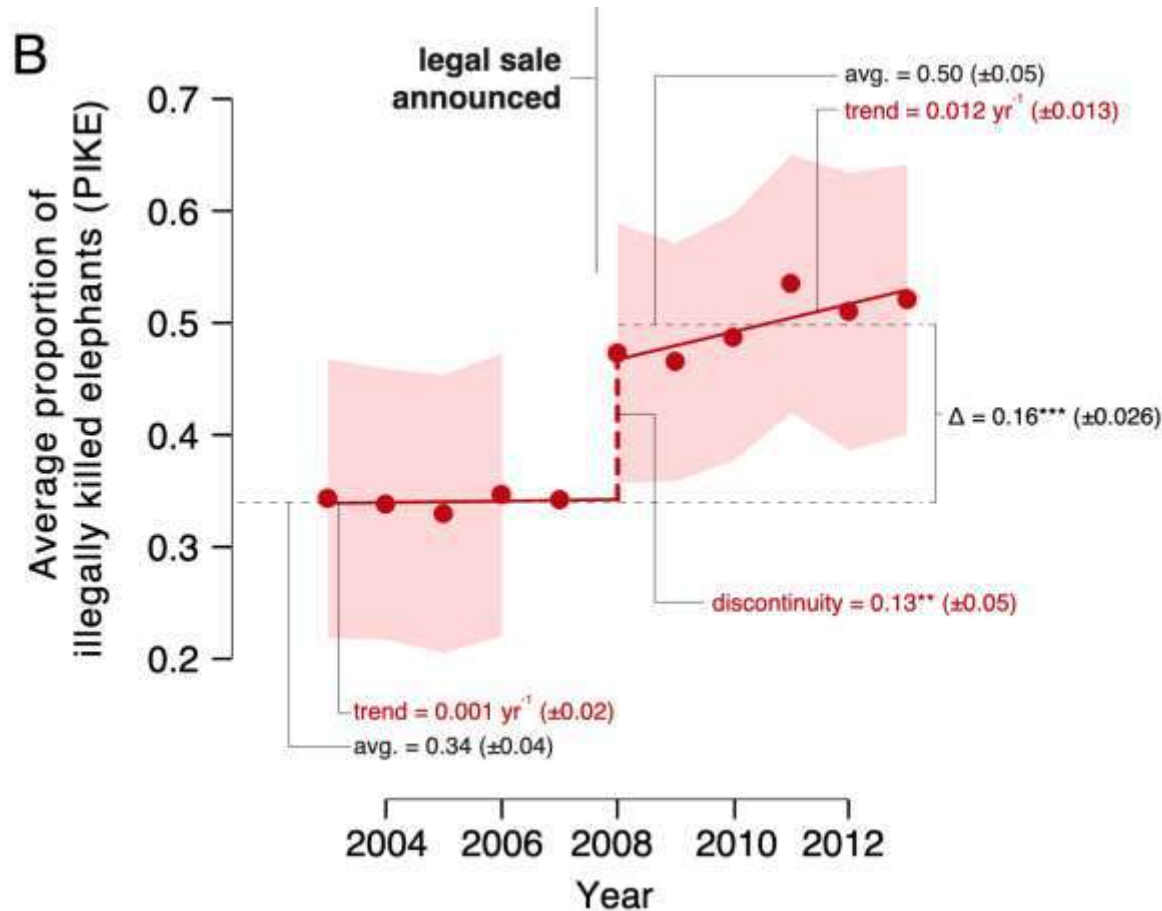
1. 市場取引も取引の誘発効果があり、今後縮小すべき。
2. DXで印鑑の需要がなくなるかはまだ不透明。印章の材料を象牙以外にシフトさせる啓発を続けるべき。
3. 英国では象牙以外に、カバの牙なども規制対象に加える規制案が検討されている。



補足1.1 市場取引の効果

- 合法的な市場であっても、価格がシグナルになり、需要や供給を誘発する効果がある。そのため、合法的な市場では可能な限り密輸された象牙は不可能にし、それを知らしめていくべき。
 - 需要が存在する上で、市場が閉鎖される場合、ブラックマーケットが拡大する。→取引の拡大は起こらない(完全に代替(だいたい)しているわけではない)。
 - 例えば、合法的な取引を増やした場合、完全に代替すれば、密猟は減るはずだが、2008年の合法取引の増加で、密猟が増加したことが示されている。
- Hsiang and Sekar[2016] (NBER WP 22314)

補足1.2 市場取引の効果



注)なお、1999年は日本のみ、2008年は日本と中国向けに合法的な象牙の輸出が行われた。本論文では、1999年には象の密猟の信頼できる統計自体がないために分析されていない。

よって、仮に市場閉鎖して、ブラックマーケットが拡大しても、(市場のシグナル効果がなくなるため)取引量が従来より拡大しない。

補足1.3 市場取引の効果



仮に市場取引を継続しても、市場や価格のシグナル効果を極力抑える努力をすべきである。

→そもそも合法的な象牙以外は取引できず、違法象牙とは全く違う市場であることを全世界的に周知徹底させる。

Solomon Hsiang & Nitin Sekar [2016] “Does Legalization Reduce Black Market Activity? Evidence from a Global Ivory Experiment and Elephant Poaching Data” NBER Working Paper 22314



補足2. DXの効果

DXで印鑑の需要がなくなるかどうかはまだ不透明。

- むしろDXの最大のポイントは情報セキュリティを厳格にした上で、オンラインでの情報の共有であるため、本人確認や認証に印章が用いられる可能性も存在する。
- 今後も印章の需要が継続しても、印章の材料として象牙以外を推奨する啓発活動を続けていくことが重要である。



補足3. 英国での規制の拡大の動き

2018年にごく一部の例外を除いて象牙市場を閉鎖する規制を導入した英国では、象牙以外にも希少動物の牙などについて、取引を禁止する規制案を検討。

- 規制案として以下の2案と現状維持の3案を提案。
 - 強化案1: 象牙に加え、カバの牙も規制対象とする。
 - 強化案2: 象牙に加え、カバの牙、セイウチ、イッカク(くじら)、シャチ、マッコウクジラの5種類の動物も規制対象とする。

Consultation on extending the Ivory Act to other species (英国環境・食糧・農村地域省による象牙規制の他の種への拡張に関するパブリックコメント)

<https://consult.defra.gov.uk/communications/extending-the-ivory-act-to-other-species/>